

総合政策特別委員会 中間まとめ（案）に対する意見

平成 26 年 12 月 9 日
国立大学法人名古屋大学総長
濱口 道成

我が国最大の宝である「人」が持つ力を高め、もって人々の生活に豊かさをもたらし科学技術・学術を発展させていくことが重要との認識の下、人材委員会において議論を重ねてきた。

今回のノーベル賞受賞の件で改めてわかったように、若手時代に自らの自由な発想に基づいた研究に挑戦することがその後の研究成果に結びつく。若い力を最大限発揮させるような環境を整備することが重要と考える。

そのため、「人材システムの改革」をとりまとめるにあたっては、以下のような観点を盛り込んではどうか。

- ①若手研究者の活躍支援と流動性の高い人材システムの構築として、
 - ・テニュアトラック制の活用促進
 - ・優秀な研究者が機関や分野の枠を超えて活躍できる新たな制度の創設
 - ・産学官のマッチング機会の更なる充実
- ②国境を越えて優秀な人材を獲得する仕組みの構造化として、
 - ・頭脳循環を加速する取組の推進
 - ・優秀な留学生の定着・活躍促進
- ③多様な研究者が活躍するダイバーシティ研究環境の整備として
 - ・女性研究者の活躍促進
 - ・新たなイノベーションシステムに不可欠となる研究推進人材の育成

【参考】

(別紙)「科学技術イノベーション人材の育成・確保のために早急に措置すべき施策（平成 26 年 11 月 14 日 科学技術・学術審議会 人材委員会）」